

講習会で救急法を学ぶ宮川町内会の住民117日、高浜コミセン

救急法学び 助け合いを

宮川町内会で講習会

宮川町内会（吉田隆介会長、96世帯）は17日、高浜コミセンでAEDを使った救急法講習会を開いた。地域活動サポートセンター柏崎（サポセン）の防災講習室を利用し、本年度2回目。約20人が参加した。

同町内は、救急車の到着まで20分以上かかる。中越沖地震で地域が孤立した経験も踏まえ、住民の間で「自助・共助」の意識が高



まった。町内の6人が防災士の資格を取得。自主防り役としても力を発揮して
災組織の継続的運営のほ
いる。

この日は日本赤十字社東支部の救急指導員・小林巴代志さんを講師に、胸部圧迫やAEDの使い方などを教わった。その後、参加者全員が処置の仕方を実際にやってみた。70代女性は「AEDがどのような器具に興味があった。使い方を
知る良い機会となった」、60代女性は「胸骨圧迫が難しい。忘れないように次回も参加したい」と話した。

吉田会長（69）は「緊急時に一人できることは限られる。お互いに助け合える地域を目指したい」と見守った。

防災講習会は、サポセンが8年前から自主防災組織に講師を派遣しているもの。「例年は講習会の開催依頼が30回程度だが、本年度は54回を数えた。地域防災力が高まりつつあると受け止める」とした。